

新花色ピンク系グロリオサの特性



写真 花型と花披片

左：高育2号 中：11-P48 右：‘サザンウインド’

表1 ピンク系グロリオサの開花、草姿・切り花の特性^{z)}

品種・系統		開花日	到花日数	草姿・花 ^{y)}		
		月/日	日	第1花 葉数 枚	第1花 草丈 cm	花穂長
						cm
育成 系統	高育2号	4/17	61	38.4	139	35
	11-P48	4/9	53	37.3	130	40
従来 品種	ミサトレッド	4/10	54	32.8	148	45
	サザンウインド (標準品種)	4/5	49	23.5	104	37

z) 定植日は、2021年2月15日、50g以上の塊茎を使用。最低夜温10℃。

y) 第一花の葉数は、第1花の基部までの葉の枚数、草丈は、地際部から第1花の花梗までの長さ、花穂長は、第1花の花梗基部から6輪目の蕾に先端までの長さ。

表2 ピンク系グロリオサの新塊茎の分球と二次塊茎率^{z)}

系統・品種名		2022(夏咲き)		2023(春咲き)		
		2球	3球	2球	3球	二次塊茎率
		%	%	%	%	%
育成系統	高育2号	52.2	39.1	71.3	27.5	13.3
	11-P48	60.9	39.1	80.6	19.4	0
従来品種	サザンウインド	—	—	100	0	1.7

z) 2022(夏咲き)：2022年6月3日定植、第1花開花時期7月8日～15日、9月3日掘上(栽培期間90日)、供試塊茎数20球/区。2023(春咲き)：2023年1月26日定植、第1花開花時期3月29日～4月6日、5月31日掘上(栽培期間120日間)、供試塊茎数30球/区。1球の塊茎が、2球および3球に分球した割合を示した。新塊茎の先端に発生した塊茎を次作の定植には使用できない二次塊茎として、全新塊茎に対する割合を調査。二次塊茎率は、2023(春咲き)のみで調査。

全国シェア日本一の高知県産グロリオサは、国内外で人気があり、一部はアメリカや中国などに輸出されています。また、産地ではオリジナル品種の育成が盛んで、赤色、白色品種などが育成、生産されています。

当センターではこれまで、橙色の品種‘オレンジハート’を育成・普及してきました。今回は‘オレンジハート’に続く品種として期待されているピンク花色の育成系統、高育2号、11-P48(写真)の生育、増殖特性について調査しました。

生育特性は、いずれの育成系統も、従来品種の‘サザンウインド’に比べ到花日数は短く、着葉枚数は多く、第1花までの草丈は長くなりました(表1)。

次作に使用できる新塊茎は、夏咲きでは、いずれの育成系統とも40%程度が3球に分球し、春咲きでは‘サザンウインド’

がすべて2球に分球したのに対し、育成系統では20～30%程度が3球に分球しました。また、次作の栽培に使用できない二次塊茎は、11-P48では発生しませんでした。高育2号では10%程度発生しました(表2)。

以上のことから、ピンク系グロリオサ育成系統の高育2号、11-P48は、従来品種より草丈が長く、やや3球に分球しやすいこと、二次塊茎については、高育2号が発生しやすいものの、11-P48は‘サザンウインド’よりも発生しにくいことが明らかになりました。

今後は生産現場での栽培実証、市場性評価等を通じて産地普及を目指します。

(花き担当 平石真紀 088-863-4918)